

陳 情 文 書 表

受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名	陳情第221号（8． 9． 1） 排泄に課題を抱える障害者の日常生活用具へ排泄予測支援機器の追加認定についての陳情
陳 情 の 要 旨	神戸市内に居住する排泄に課題を抱える障害児・ 障害者及びその家族が、日々の排泄にまつわる不安から解放され、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、神戸市において、排泄予測支援機器「DFree」を日常生活用具として追加認定すること。
陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名	神戸市兵庫区 磯井 千代
送 付 委 員 会	福祉環境委員会

排泄に課題を抱える障害者の日常生活用具へ 排泄予測支援機器の追加認定についての陳情

1 陳情の要旨

神戸市内に居住する排泄に課題を抱える障害児・障害者およびそのご家族が、日々の排泄にまつわる不安から解放され、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、神戸市において、排泄予測支援機器「DFree」を日常生活用具として追加認定いただきたい。※「DFree」は令和4年4月に特定福祉用具認定され、介護保険適用である

2 陳情の理由

令和6年3月の障害者保健福祉関係主管課長会議資料「日常生活用具給付等事業の適正な実施について」には、「日常生活用具給付等事業については、その事業費が年々増加傾向にあり、今後も安定した事業運営を行うためには各市町村において効果的・効率的な事業実施が図られる必要がある。また、当該団体者等からは、一部の市町村においては、長期間にわたり種目や基準額等の見直しが行われていない状況にあるとの声も寄せられているところである。このため、各市町村においては定期的に当事者の意見を聴取によるニーズ把握や実勢価格の調査等、地域の実情に即した適切な種目や基準額となるよう定期的な見直しに努められたい」と記載がある。重い障害のため自力で歩くことができず、言葉で思いを伝えることも難しい。尿意を伝えられないため、排泄は常にオムツの中でしており、成長とともに尿の量が増えてきた近年は、オムツから漏れてしまうことが多くなった。漏れるたびに衣服や寝具の着替えと洗濯に追われ、何より、失禁が続く時間を不快な思いで過ごすわが子の姿は、親にとって切ないものである。それでも家族は、排尿のタイミングさえ分かれば、トイレでの排泄に挑戦させてあげたいという希望を持ち続けている。

「DFree」は、超音波センサーにより膀胱内の尿量を客観的な数値として可視化し、たまったタイミングを通知する機器である。言葉や仕草で尿意を伝えられない子どもにとって、本機器は、漏れる前のオムツ交換やトイレへの誘導を可能にし、不快な時間を減らし、排泄の自立に向けた一歩を後押しする、他に代えがたい支援である。しかし、日常生活用具として認定されていない現状では全額自己負担となり、継続利用の負担は大きい。日常生活用具給付等事業は市町村の判断で給付品目を定

めることができる制度であり、既に東京都港区、板橋区、品川区をはじめ認定の動きは全国に広がっている。神戸市においても、本機器の早急な追加認定が強く望まれる。

3 排泄予測支援機器「DFree」は超音波センサーにより膀胱を経時的にモニタリングし、膀胱内の尿の溜まり具合を0~10で数値化が行われる。その数値は専用タブレットやスマートフォンで確認でき、排尿のタイミングを予測し排尿機会を本人または介助者に通知することが可能。「DFree」を装着し、通知のタイミングで声かけを行うことで、感覚や時間でトイレ誘導をするのではなく、膀胱に尿が溜まったタイミングで声かけを行える。完全にトイレで排泄できる段階までは成功していないが、中長期的に活用することで、本人が通知を元に（尿意を感じて）トイレへの訴えができるようになるのではと期待をしている。このように「DFree」は適切なタイミングで尿意を感じることができない障害者にとって非常に有用である。排泄に悩みを抱える障害者が負担少なく購入できるよう、排泄予測支援機器「DFree」を日常生活用具として追加認定いただきたい。

神戸市会議長 よこはた 和幸 さま

令和 8 年 8 月 26 日

住 所 神戸市兵庫区

氏 名 磯井 千代子 (印)

電話番号